

滋賀森林管理署

担当者
森林技術指導官: 中村雅人
地域林政調整官: 落窪弘行
TEL: 050-3160-6115

- 滋賀県の森林は、県境の脊梁山地から琵琶湖へ水が流れ込む形に分布しており、県土の50% (202千ha) が森林であり、このうち国有林は18千haあります。
民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が80千haで、人工林率が44%と全国平均46%とほぼ同水準にあります。また、戦後に造林された人工林は、保育・間伐作業が必要な資源の造成期から、資源の成熟に伴い、利用段階に移行しつつあります。
我が国の林業・木材産業は、近年国産材供給量が回復傾向にあるものの、木材自給率は依然として低い水準にあり、また、長期にわたる林業産出額や林業所得の減少、森林所有者の経営意欲の低迷、国産材の生産・流通構造の改革の遅れ等、引き続き厳しい状況にあり、滋賀県においても森林の適切な整備が行われない箇所や二ホンシカによる森林被害の増加など、森林の有する多面的機能の発揮への影響も懸念されています。
一方、国有林の人工林率は17%と低いものの、近畿の水瓶である琵琶湖に注ぐ河川の上流に位置する森林と、田上山や三上山など平野部に近い歴史的にも文化的にも由緒ある森林を有しており、水源涵養、保健・文化・教育的な利用の場としての森林の多面的機能の発揮に寄与しています。
- 滋賀県との地域林政連絡会議では、平成26年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成27年度の民国連携の取組に向けて、二ホンシカ被害対策等について意見交換を行いました。
- 国有林が所在する市町の地域課題に対応するため、各種会議の機会等を利用して幅広に情報収集等を行っており、地域課題の解決に向けて市町と連携した取組となるよう努めています。



(滋賀県との地域林政連絡会議の様子)

治山対策の推進

【課題】 平成25年9月の集中豪雨による山地災害発生箇所への復旧整備等 (継続)

【取組状況】

- ・平成25年9月の集中豪雨により滋賀県内各地において大規模な山地災害が発生した。災害発生後、被災状況の把握に努め、滋賀県内の各関係機関と連携を図り、国有林被害箇所の復旧計画を作成するとともに、滋賀県砂防治山連絡調整会議において国有林、民有林間の事業の調整及び情報の共有を図った。
- ・治山工事箇所について、地元説明会等を実施し、地域住民からの意見・要望等を把握し、併せて治山事業のPRを実施した。
- ・平成26年度に緊急性の高い8箇所(大津市6箇所、野洲市1箇所、近江八幡市1箇所)、平成27年度には2箇所(大津市1箇所、近江八幡市1箇所)の災害対策工事及び復旧治山工事が完成した。

【成果と今後の課題】

- ・平成28年度も引き続き被災箇所の復旧に努めるとともに、災害に強い森林づくりに取り組んでいくことが必要。

平成27年度復旧治山工事箇所
(大津市 大谷国有林、平成26年9月撮影)



工事完成 (平成28年3月撮影)



平成27年度復旧治山工事箇所
(近江八幡市 奥島山国有林、平成26年8月撮影)



工事完成 (平成28年3月撮影)



鳥獣被害対策の推進

【課題1】ニホンジカの個体数管理（継続）

【取組状況】

- ・ 大津市有害鳥獣被害対策協議会へ参画し、協議会関係者等と効率的なニホンジカの捕獲対策に向けた対策の検討を実施。
- ・ 大津市内の国有林においてシカを捕獲するために大津市と調整を図りつつ、滋賀県猟友会大津支部及び湖南支部と委託契約を締結してニホンジカの捕獲を実施。
- ・ 国有林野等所在市町有志協議会等の各種会議において、各機関からニホンジカ被害に係る情報の収集を実施。

【成果と今後の課題】

- ・ 箱檻、くくり罠によりニホンジカを捕獲し、個体数管理に寄与。今後、更なる捕獲頭数の増加に向けて、関係者による意見交換等を実施。
- ・ ニホンジカの個体数管理について、次年度も取組を継続することとし、関係機関等への連絡調整を実施。



（箱檻設置の様子）



（捕獲されたニホンジカの様子）

ニホンジカ捕獲実績

		6~8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
捕獲頭数	大津支部	5	5	2	3	7	3	25
	湖南支部	3	1	9	17	—	—	30
	計	8	6	11	20	7	3	55

※捕獲の事業は6月から2月まで実施

【課題2】伊崎国有林におけるカワウ森林被害対策（継続）

【取組状況】

- ・ 滋賀県カワウ総合対策協議会へ参画し、「滋賀県カワウ第二種特定鳥獣管理計画」に基づき総合的・計画的に推進することを目的に情報共有及び対策の検討等を実施。
- ・ カワウの被害を受けている漁業関係者、竹生島在島関係者、野鳥の会関係者、狩猟者団体関係者、カワウ関係学識経験者、行政関係者等でカワウ対策の内容及び実施された事業について意見交換を実施。
- ・ 滋賀県と連携した捕獲区域への立入規制、カワウの遺体回収等の管理業務を実施
- ・ 学識経験者のほか滋賀県、長浜市、近江八幡市も参加した、伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ会合を実施。

【成果と今後の課題】

- ・ 関西広域連合、滋賀県等の各種会議に参画し情報を入手し、今年度の伊崎国有林におけるカワウ森林影響調査報告を実施。
- ・ 次年度も取組を継続することとし、関係機関等への連絡調整を予定。



（カワウ営巣状況
枯枝は巣材となる）

（カワウ営巣状況）

